

「新型コロナウイルス感染症に関連する健康心理学的研究助成」

助成対象者の決定のお知らせ

日本健康心理学会では、新型コロナウイルス感染症に関連する健康心理学的研究を支援するため、10月末日を期限として研究助成の募集を行いました。理事会での審議の結果、以下の6名の会員に助成を行うことを決定いたしました。十分な助成額ではありませんが、研究に役立てていただき、実りある研究成果を公表してくださることを期待しております。

研究テーマ：コロナウイルス禍におけるタッピングタッチ・オンライン・プログラムの実践研究

研究代表者：大浦 真一（東海学院大学・講師） 共同研究者3名

研究テーマ：コロナ禍における日本人留学生のこころの支援に向けて－海外生活の危機管理から帰国後の再出発へ－

研究代表者：迫 こゆり（岡山大学・客員研究員、愛知県・スクールカウンセラー）

研究テーマ：コロナ禍におけるストレス反応とその後の成長に関する縦断研究

研究代表者：菅原 大地（筑波大学人間系・助教） 共同研究者3名

研究テーマ：新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化における化粧に随伴する感情や態度の変化が化粧の満足度やQOLにおよぼす影響

研究代表者：鈴木 公啓（東京未来大学・講師） 共同研究者1名

研究テーマ：曖昧さ耐性はWithコロナ社会への適応促進要因となりうるか？

研究代表者：友野 隆成（宮城学院女子大学学芸学部・教授）

研究テーマ：中国におけるコロナ・パンデミック・ドリームの実際－COVID-19感染予防のための都市封鎖が夢想起に与える影響－

研究代表者：松田 英子（東洋大学社会学部・教授） 共同研究者2名